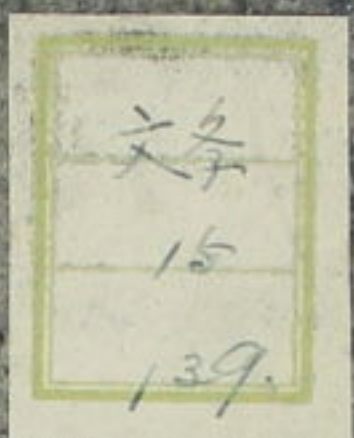




徂来先生答問書 下



何事も理窟をも漸りしむと云ふは、只不入事なるが如し。
 然るに是ハ理学の習蔽を小量小入りの事を所在作。
 何事も理窟をも漸りしむと云ふは、只不入事なるが如し。
 然るに是ハ理学の習蔽を小量小入りの事を所在作。

かり事と云ふは。治世の人と大勢あつてひるひとせ
出ても火急なりとぞうて作。是よりしていみじく
兵法は云々氣風角に並ぶ勝のた有し。是等
流忍の心を一つして其志を勤志むる古今一轍なり。
理學の過といつても皆小量に成。蟹乃甲に似て穴を
穿てく。何れも皆己の身ひらうと云ひぬれ。聖人の
乃ハ國天下を治めたる事と云ふは一つのはうと云ふ事。
偶治も平天下の業を論り。只此理と初心計なり。
是と云ふ上は心付不ず。是を人智人力と云ふ不

中。天命乃上の事も理と云ふ。是より
して聖人のト並と云用り。乃ハ合兵と云ふ。此等
功移り。次第に大量に成る。涉疑ひ有る處。皆相増太
く通る。此心得の成なり。

一世に武士道と云ふ。乃ハ一統古に書く有る。是等の
乃ハかゝる人を作むるなり。或るやうに云ふ。何れ
通ずる。此のなり。乃ハ天下の治めたるなり。此の
を莊の自然。申韓の刑名。元より云と云ふ。乃ハ
乃ハ農圃。盧扁の醫術。郭橐駝の種樹。柳子厚の都料通

し類は後で文脈に於て世に上り下りあるものなり。多くは然る
之時かゝる名物の篇を流傳して軍者杯のしるしなり。えうふ
とも法め。士卒を以て思ひ及ぶ人の心を安んずる。然るの如き
うもわづらひ。然る聖人の通ふはるるの如くして海より
下る。其道を論しうもむる人を論しうもむるなり。
古しむる爲氏正威等より。進くは佐吉謙佐に對する。て
其人の賢否得失を明かり事なり。然るも。そのうも。佐
節も押さへ知しむる。古く。書く有るは。たゞ。書くものなり。
後子吳子韓信諸葛孔明李靖。類は。方々とも。ある。

右流るる是の等。は。所。し。う。ひ。り。う。は。され。よ。け。人。も。別。
武乃。い。ふ。事。を。さ。さ。り。う。の。ハ。事。の。起。り。吾。國。に。依。
て。又。武。二。乃。し。り。何。有。し。ん。是。ハ。中。古。より。云。ふ。武。乃。ハ。
亦。別。也。い。う。云。ふ。は。け。ん。の。藝。と。文。乃。ハ。文。人。武。乃。ハ。武。
の。藝。と。武。乃。ハ。名。付。の。流。況。と。事。は。詩。歌。も。ら。馬。も。藝。
也。い。う。又。音。なる。も。乃。ハ。名。付。の。事。なり。い。う。て。作。れ。
た。武。乃。の。世。に。し。り。た。一。種。の。風。俗。自。然。に。あ。る。ん。
大。抵。乃。と。高。ひ。死。を。い。う。た。恥。と。知。り。佐。を。重。ん。じ。う。
さ。に。あ。り。う。と。男。子。れ。せ。る。事。に。ま。い。り。り。源。平。の。時。

かへ通る。いふまでもなく世々々々我ふゝなりけれ。世々軍
中の法令をひてふと作る。其後天下一統して。何も
又盲を古と稽へ文達し返す事とある。太平の今
ありて。友誼も軍中の収割と其儀に用ひ。政治も軍
中の法令と改めぬ。是よりして武威をひてひきつけ。何
事も簡易経直なるを貴ひ。これを武家の治めや
まて。是吾邦に古より傳ふる武風なり。又盲なり
と云ふ。いふも。軍者杯より者儒書のなり。と
云ふ。乾元剛健の徳なり。事とこれに我我國

名物の上。改令し。或は武風なるを神なり。向
より建てる。何れも。何れも。何れも。何れも。何れも。
是若我ふ。事。源平時代。いふ。事
あり。治世之風俗。風俗移り。結句。源平の
時分の武士の風俗。只我ふ。時。源平の風俗
なり。計世。新法。武。字。戯。訓。
事。我。逆。静。武。これ。武。の。民と
安。我。我。逆。静。武。安。我。
則聖人の乃の一端なり。作る。時。文と用ひ。我。時。

一 此不多。後儒、聖人乃教者、禮樂なり事と不なる
 此解遠い。
 一 此終遠と先王制礼の意と読む。今日受用
 するの語と異なる。
 一 此文章ともどもを以て皆宋学より直して之を正す
 所は
 一 後漢書、不佞未熟、時の書う。此用、或る友
 仁齋、周齋などの書、或る友人、或る末と
 此りて、かとは、或るより、或る要、或る、或る

一 此終遠と先王制礼の意と読む。今日受用
 するの語と異なる。
 一 此文章ともどもを以て皆宋学より直して之を正す
 所は
 一 後漢書、不佞未熟、時の書う。此用、或る友
 仁齋、周齋などの書、或る友人、或る末と
 此りて、かとは、或るより、或る要、或る、或る

條とて歟。事は。夫れ物格而后知至知至而意誠と
言ふ天下平と。順流直下と文勢なり。就其格物と一
條と事深き。以上誠意正心脩身等と工夫意
事なり。是又面々修し是れ時也。又明明徳
於天下と云注し。使天下之人皆有以明其徳と有ふ。
心と平なり。心と平なり。其辭も世也。九也。事世界
有無き事なり。不なむ。修し朱子と注し。既し大学小
学と分て。大学は庶人へ慈ふるものなり。而し此に
まうそ。又天下し人へ皆大学を教を施す相見

なり。以上等し不なむ。言なり。是又孟子學校
事と注し。人倫明於上庶民親於下と有し。作。
就其親民は新民と不改なり。修し新民と文字を。
書修し而革命のなり。大学し教は平日の事なり。
是等し不なむ。其教なり。又格物と二字と窮到事
物と注し。注有し。是易し窮理と文字を借来
て注し。格物也。格到也。物は事なり。注し。是又
面々修し。窮理と云ふなり。窮到事物と注し。不
注し。本文も修し。窮理と二字と付添て義を生じ

はく物といふ。此後疑ふべき事。且易有窮理ハ
聖人易を作してと讚歎したる詞也。全く今日
者より上へ事してハ云ふ。心を平ふて以て成
今日天下に理ハ窮盡さるべき物といふ。是皆
此事と説く人と違ふ。中物といふ。是又三綱
八條目より細かき物といふ形。何して大
学に計有六經より一不も無き。是等不疑
ハ云ふ。是又程朱之學同。理氣を分ち。天
理人欲と分ち。本然氣質と分ち。より
ハ云ふ。此肝要なる事と何して

古に聖人ハ説不云ふ。果して程朱ハ説
程朱ハ孔子より事分明といふ。又古に
聖人ハ法外に云ふ。程朱ハ説別一流
と物といふ。論云ふ至り。多
くハ時代不同なり。是皆
後世利口と説く事。是ハ古書に
熟し者。古今之義別ハ云ふ。事
より事と云ふ。是ハ古の聖人ハ智ハ
古今と貫通して。今日格の弊と明
以て。是ハ古の聖人ハ云ふ。古今
と貫通して。其意ハ利義と古
と来代も抑く。語自云ふ。是ハ
古の聖人ハ

一、理氣本然。氣質天理。人欲等。皆古聖人之教。
予之事。以修其仁。知所分。格致致知誠
意正心。持敬。予之志。是又古聖人之教。予之志。
聖經のこゝろ。予之志。是又古聖人之教。予之志。
して入。予之志。是又古聖人之教。予之志。
忠信。予之志。是又古聖人之教。予之志。
無事。予之志。是又古聖人之教。予之志。
文字。予之志。是又古聖人之教。予之志。
結。予之志。是又古聖人之教。予之志。

老。懺悔。予之志。是又古聖人之教。予之志。
に。其子細。懺悔。予之志。是又古聖人之教。予之志。
急。予之志。是又古聖人之教。予之志。
さて。予之志。是又古聖人之教。予之志。
明。予之志。是又古聖人之教。予之志。
計。予之志。是又古聖人之教。予之志。
予。予之志。是又古聖人之教。予之志。
物。予之志。是又古聖人之教。予之志。
讀。予之志。是又古聖人之教。予之志。

中。其言をよみてみれば又沙と見ゆともかく讀むも
うづうと見居りぬ。何とてか疑ふ事あり。是を
種々して。只今の經學の大形が地と事合ふ事あり
といふ。況ふに早く余得て了らば益ありといふも
自己の教のありき事には。けしきある憾悔のあり
支那門弟子の教も益あり。但し吾等博く書を
見ゆれば。右の經書は又沙と詠りて余得て了ら
ば。書と地と事合ふ事あり。況ふに朱注を以て作
業見てもさうあり。皆く外の書を見り。經書

不干渉事。然して思ふに。無用の用。事有
し。思ふに。皆く事あり。

一
道ハ事物の理をも。天地自然の理をも。聖
人の建立の理をも。天下の理をも。皆く事
なり。而不審の理なり。宋學の理なり。先
天地自然の理なり。事物の理なり。有る理なり。毫髮
の付添もなき天地其理なり。立て。誠。向上。至極。相分
り。其理の至極と諸人。聖人の理と破却。事なり。
其理ハ事なり。不審。相又事物の理なり。天地

自然くなりて見えと底く帯て説出たる説くは
是皆信ぜる事厚く。古聖人を伝ふる事厚く不
より生きたる説くは。宋儒く格物致知く修治とて
此事もかく何の金さともづ。其の六たる金さ等も
おろし極め出して。是即聖人なりと説くか。子
是既見なり。もあへて見識界をまゝに随ひて始
めたるべし。さひたる事の後にた何のまゝと云ふ事
のいふも何の金さともあらず。早きに欄柄も入
りて思ふれ。此見識を生ぜる事なり。聖人たる

甚深廣大にて中く學者く見識とて何の有金さ
等の道理と見ゆ事とていかにある也。志の如く我の
顔の威程をかく何の金さともあらず。聖人たる
印可をせし心根。誠く推高く至極く云ふ金さ。其
上聖人の心を己が心の如く。今せて威程をかく何の金さ
等。清道等。きかぬ時。後く己が心。合たる不計と
なりて。この心。むと思ふねとて棄る事。成りしれ。
聖人たる。なりたる。皆く己が既見く威中事なり。かく乃
こゝれの見識長きとて随ひて。見識清道迫切なりて。

節目と主とを教へんと教へんと。國天下と治むと教へ
り。先名目と相違ふ。六經論語の目と事と。宋
儒の例之理なり。治めも身兼教也。乃理を以て推て
つひに口上なり。理の國を治められた。宋儒の理を
治め。古事ハ事なり。教といふ詞。いつくとも事なり。對
する教といふ思ふ。世又天下國家と治む。世を治む
は事なり。乃合意なり。是又宋儒の理を治め
る。先我道。元祖の堯舜也。堯舜ハ天子なり。史
より後聖人稱。禹湯文武周公也。何事も皆天下

を治む人なり。孔子ハ世道と傳へる人也。故に
聖人ハ道ハ專天下を治む。禮樂刑政ハ
皆道なり。論語ハ子游武城。宰予ハ弦歌ハ聲ハ
を孔子笑ふ。子游君子道則愛人。小人道則易
使。孟子ハ世道之。分明ハ樂ハ事なり。孔子
ハ直道ハ名目ハ遠ハ有るなり。宋儒ハ注解ハ
世道字のなり。朱子ハ黙ハて過る。五倫ハ不
也。是道主ハ天下ハ平治ハ事なり。聖人ハ主
也。聖人ハ天下ハ平治ハ事なり。爲ハ建立

かかれたる事い。脩身事し有之い。身脩しきされし
下尊信せむしを乃これなり。君子脩身い。今日
學者といふより見識を生じて。聖人といふ天下の家
を治むる道といふより見用といふ六経の掌を指すといふ
志あり。後世に信者見識低く器量小く。何れも我
身一つを思ひながら。心法に密し。沈黙し。成行。今日脩
身といひて聖人といふ人求めん。聖人成得りて天下
國家を治る。治るより思取より。事ハ起る。佛老の
意地。陷る。釋迦ハ乞食の境界を。家もかく妻子もかく。

して國天下も持する身ハ其乃ち我身一つといふ
是等し不聖人といふ之大歎しかれりといふ。帝嘗てあ
徳といひて天下を治む。堯舜より始めて道を建
立す。然るに祖述堯舜又書は堯舜より始まる
あり。元祖なる也。堯舜も徳を以て天下を治むとい
ふ。道の建立し及ぶ事也。聖賢の此世も。此乃傳
たる時ハ。聖賢在世のいふ天下國家平治なり。孟子
と工夫しして。建立しむる事して。禹湯又武周公の繼
て脩補する事也。是よりして孔子もさよふされし

詩書二經、古今讀書家皆一統之書。孔子之時、詩書より外に書あり。相六書し。詩云、書云、計有し。詩書と云、學只古代に學同し。これ程重きことなり。但し新注がで其えり。新注を成る。本文は又面と誤り。この誤り。我存。詩經朱傳。朱子作。内し不出來り。ゆゑ害もあらず。書經新注。蔡沈作。そに只ひし。此相。書經ハ旁通通考。ヤ相とつけ

三十一

詩經ハ方々友も淵乎と相見たり。論語ハ不孝詩を
以言と有し。詩三百使四方不能專對と有し。是詩
才を授け教を授け。洞く人性通達なり。詩經ハ友
も人性通達なり。抑も事ハ成る抑も。宋儒ハ非
邪正を見ず。わづめらき。論語聖言詩經ハ事
有之。反不孝。是非邪正を見り見り。勸懲ハ為
と見ず。是等ハ。詩經ハ覺れ。大波のまじ
り。少中を。詩經ハ詩も後世ハ詩も全く題目を。此
詩經ハ詩ハ由見。是ハ。然る。

一 友府事務ハ文字ハ。通典律令ハ。此
不孝ハ。淵乎。異朝の歴代ハ。代ハ。の制法ハ。有し。
若其代其代ハ。同祖ハ。君の料。第ハ。世界今。体ハ。組立。
移り有し。制法。有し。是と。今。得ず。ハ。其時
代ハ。事。淵乎。歴史と見ず。得ず。淵乎。抑も。
三代ハ。事。經書ハ。上。周ハ。儀禮礼記。淵乎。ハ。見。
あ。日本。の事。源也。律令。延喜式と見ず。公家の代
事ハ。淵乎。抑も。異。玉。代ハ。の制度ハ。日本乃
昔ハ。制度。の。場と。知。今日。尚。代ハ。上。ハ。文。異。ふ。

